

00年ほど前から半農半牧の遼河文明が栄えたが4200年ほど前から氣候が乾燥し土地が砂漠化したため、この文明を支えていた人たちは黄河文明地域に移動したと考えられている。

世界のその他の文明についても以下にその発祥と盛衰を概観してみる。

インダス文明は、インド、パキスタン、アフガ

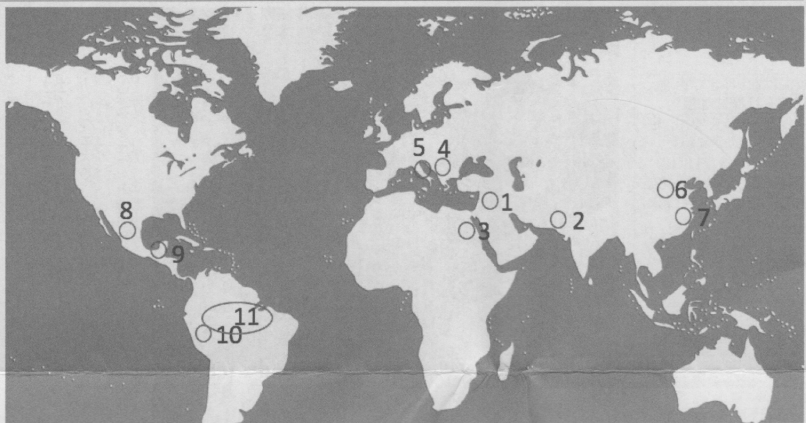
ニスタンを含むインダス川流域で4600年前から3800年前までの間に栄えた文明であり、メソポタミア文明とも交流を持っていた。農業は河川の氾濫地で行われ、コブウシなどの牧畜も行われていた。しかし氣候変動によって乾燥化が進んだことにより滅亡した。

エジプト文明は、メソポタミアからの農耕文明

の伝播により、ナイルデルタで7000年ほど前に始まった。エジプトでの農業はナイル川が運んだ肥沃な土壌の上で行われたため、1964年にアスワン・ハイ・ダムが建設されるまで継続することができた。ダムの建設後は化学肥料への依存と土壌の塩類化により農業環境が破壊されてしまった。

マヤ文明の絶頂期

中米(メソアメリカ)では4000年ほど前にトウモロコシが栽培化された。その後、ユカタン半島を基盤をおいたマヤ族の人々は紀元前2世紀には階層制社会をもつ都市国家を形成した。マヤ文明が絶頂期に達した紀元600年から900年頃には人口が500万人



古代農耕文明が栄えた地域 1メソポタミア、2インダス、3エジプト、4ギリシャ、5ローマ、6黄河中流、7長江中下流、8アステカ、9マヤ、10インカ、11アマゾン(モホスおよびテラプレタ)

から600万人に達していたと推定されている。これら地域の農耕は焼畑農業として始められた

が人口増大に伴い定常畑化していった。マヤ文明では家畜を飼っていないので家畜糞による